

平成27年第1回定例会（3月）一般質問

（3）戦後70年目を迎え、平和を願う取り組みの展開について

○ 議員 宮下 裕美子 3番目の質問に入ります。戦後70年を迎え、平和を願う取り組みの展開について、町長及び教育長に伺いたいと思います。月形町では毎年遺族会とともに戦没者追悼式を行っていますけれども、戦後70年ということですから、遺族の高齢化が進み、遺族の参加者も年々減っています。そのあり方も再考が必要になっていると感じています。折しも今年は戦後70年目という年になります。戦没者追悼式のあり方を含め、戦争の記憶を後世に伝え平和を願う取り組みを展開するには良い機会ではないかと考えます。町全体あるいは教育の現場で、どんな取り組みができるのか、お伺いしたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 質問に月形町遺族会の質問がありました。現在、会員数は21名、10年前の平成16年は42名でありましたので、会員数は半分となり、会員の高齢化も一段と進んでいるというのが実態であります。現在行われている月形町の戦没者追悼式の趣旨であります。町の実施要領において過去の戦歴における月形町関係の戦没者に対し、心からの追悼の誠を捧げ、恒久平和への誓いを込めて追悼式を実施することにしております。即ち本町の出身者で日露戦争以降の戦争で戦死された130名のご英霊に追悼の誠を捧げ、ご遺族には今日に至るまでの苦難とご労苦に対し哀惜と敬意を表し、合わせて戦争の悲惨さと平和の尊さをしっかりと語り継ぎ、平和の社会の実現に全町民が努めていくことを誓うものでもあります。戦没者追悼式は、古くは毎年7月3日に行われていた忠魂祭が今の追悼式につながっているもので、現在は町が主催し毎年7月3日頃にご英霊の名が刻まれている忠魂碑の前で執り行っております。式典への参列状況ですが、年々ご遺族の参列が少なくなってきたところであり、ご遺族の参列は昨年10名、10年前の平成16年より15名減っているところでもあります。ご遺族をはじめ式典の参列者が漸減していく中において、平成21年から町職員に参列を即すとともに、平成24年から全ての町政功労者の皆様にご案内を差し上げているところでもあります。昨年の参列者総数は75名となっておりますが、ちなみに平成16年の参列者は68名ということでもあります。なお、町民の皆様には追悼式の趣旨をお知らせするとともに、参

列のお願いを広報誌やIP電話で行っていますが、一般参加はないという実態であります。本年は、終戦から70年を迎え、節目の年と言われております。本町における戦没者追悼式の趣旨は、何ら変わるものではありませんし、戦没者追悼の機運を高め続けていくという思いでいるところでもあります。今年は慰霊祭や追悼式について、広報誌で開設することの他に、例年は開会時間10時だったものを11時50分程度まで遅らせて、正午のサイレンに合わせて参列者の皆様そして職場または家庭における町民の皆様にも一緒になって黙とうしていただく、そういう意味において追悼式の趣旨をご理解いただき、浸透させていくことができたらいいと考えていたところでもあります。これからも忠魂碑の前を式場としてご遺族、関係各位をはじめ多くの町民の皆様が様々なかたちで参加いただき、月形町戦没者追悼式を取り行いたい、続けて行きたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 質問にお答えします。教育の現場であります学校における平和を願う取り組みについては、月形町の図書館をはじめ近隣市町村を含めて書籍やパネルを用意する、または視覚に訴える情報機器等を活用して子ども達が戦争の悲惨さ、戦争のもたらす被害や影響を考え、平和を願う気持ちや態度を養うように、より一層、指導を工夫するとともに、できれば直接、月形町戦没者の忠魂碑のある現地に行って先人に対する畏敬の気持ちや命の大切さ等を学ぶ体験学習に取り組むよう検討したいと考えております。また、可能であれば戦争を体験した方もしくは戦争について語れる方を探り、講話をしてもらうなど改めて戦争と人々の暮らしや平和について理解を深めるよう検討して行きたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 町長の答弁で、今年度、11時50分開式、正午に全町で黙とうするという取り組みがなされることは、初めて聞いて良い取り組みであると思いましたので、そういうかたちの工夫がされた中で、戦没者追悼式が長らくこれから先も続けられることをうれしく思います。教育長からは学校教育の現場で色々な取組みをされていますけれども、子どもたちが直接、遺族の方などから体験を聞く機会がやはり必要であると考えていましたので、そういう意味では、そういうことも考えているということでした。ぜひ、早く取り組んでいただきたい。それはなぜかと言うと戦後70年も経って皆さん高齢化されていて、記憶が薄れている、語れる人の数もすごく少なくなって

いると感じますので、せっかくの節目の機会ですのでできるだけ取り組んでいただければと思います。もう一つ、教育の関係ですが、戦争ということを色々な角度から取り上げることも可能かと思います。先ほど教育長からは学校教育のところをメインで語られたわけですが、社会教育的なものあるいは道徳や総合学習的な色々な取り組みをどういう教科で取り組むのか分かりませんが、道徳の観念や学校教育という枠にとらわれず、社会教育で町民全体に対してもそういう機会を設けるような取り組みもあると思いますので、その点については、いかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 道徳については、先ほどの例示ということで教材の提示のお話をさせていただきましたが、教科はもちろん、社会科という教科が多いと思っております。もちろん道徳でも先ほど説明したとおり教材を使ってということで考えております。社会教育では図書館や生涯学習講座等もありますので、取り組んでいけるよう検討して行きたいと思っております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 了解しました。